

小学校5年国語 「みんなが過ごしやすい町へ」「目的に応じて引用するとき」

(1) 実践の概要

① 単元について

本単元は、自分の目的や意図に応じて調べたことを報告する文章を書くことを通して、集めた情報を内容ごとにまとめたり、資料や図表、グラフ等を引用したりしながら、伝えたいことを相手に伝える資質・能力を養うことを目指す。

よって、単元の目標も、以下のように「書くこと」に重点が置かれている。

- ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

② 本単元で考えられる1人1台端末の利活用について

これらの目標を効果的に達成するために、本単元の実践においては、次のような1人1台端末の利活用が考えられる。

ア「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に関連して

- ・「ロイロノート」や「Google ドキュメント」など文章作成が可能なアプリでは、コピー&ペースト機能により文の引用を素早く正確に行うことができる。
- ・図表やグラフを画像として取り込み、文章へ挿入することも容易である。
- ・これらのアプリの編集機能を活用することで、児童は様々に書き表し方を工夫しながら文章の充実を目指すことができる。

イ「目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること」に関連して

- ・インターネット環境を情報収集に活用することで、目的や意図に応じて適切な情報を見付けたり、収集した多様な情報から自分が伝えたいことを考えたりしやすくなることが期待される。
- ・「ロイロノート」や「Jamboard」など、メモカードの作成や移動が可能なアプリを活用することで、集めた情報の整理や分析が容易になり、思考を整理したり内容をふくらませたりしながら自分が伝えたいことを明確にしていくことが期待される。

ウ「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること」について

- ・「ロイロノート」や「Google ドキュメント」など、文章作成アプリを活用することで、「丁寧に字を書くのが苦手」や「文を書くのに時間がかかる」など筆記に関する苦手意識も取り払って文章作成に取り組ませられる可能性がある。
- ・文章作成アプリを活用することで、手書きよりも文章の作成および編集が容易になると考える児童も多い。これにより、推敲に対する時間的、作業的、心理的な負担が軽減され、一度文章を書き上げた後も、筋道が通った文章となるように文を修正したり、文や段落を入れ替えたりしながら文章の完成度を高めることが期待される。

(2) 活動の実際

指導書には、【表1】のような単元計画が例示されているが、単元の各所において1人1台端末を活用することで、【表2】のような単元の展開を計画し、実践を行った。各学習活動の詳細については、次の①②③の項を参照いただきたい。

【表1】指導書に例示されている単元計画

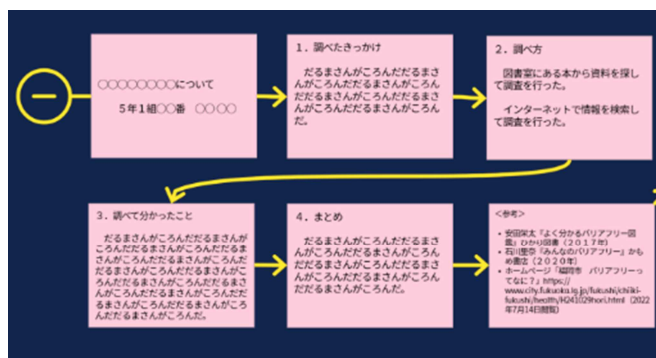
次	時間	学習活動		
第1次	1 2	1 学習課題を設定する。		
		2 学習計画を立てる。		
		3 自分が調べようとするテーマを決める。		
		4 調べ方、まとめ方を知る。		
第2次	3 4 5 6 7 8 9	5 各自調査を進める。		
		6 調べたことを分類、整理し、伝えたいことの中核となる事柄を決める。		
		7 カードを基に、組み立てメモを書く。		
		8 組み立てメモを基に、下書きをまとめる。		
		9 ペアで下書きを読み合っ て意見を伝えたい、下書きを 修正する。		
		10 清書する。		
		第3次	10	11 感想を交流する。
				12 単元を振り返る。

【表2】1人1台端末を活用した単元計画

時間	学習活動	
1 2	1 学習課題を設定する。	
	2 学習計画を立てる。	
	3 自分のテーマを決める。	
	4 調べ方やロイロノート へのまとめ方を知る。 } →①	
3 4 5 6 7 8	5 各自調査を進める。	
	6 調べたことをロイロノ ートのカードに記録する。	
	7 カードを基に、調べた ことを分類、整理し、伝 えたいことの中核を決め 文章の構成を決める。 } →②	
	8 カードに書いてあるこ とを下書きにまとめる。	
	9 下書きを推敲し、報告 文を完成させる。 } →③	
	6	
	7	
	8	
9	10 感想を交流する。	
	11 単元を振り返る。	

① 「学習活動4」での1人1台端末の利活用

報告文のまとめ方を説明する際に、ロイロノートで事前に作成しておいたカードを一斉配付した。これにより、報告文のまとめ方についての説明を最小限におさえることができ、なおかつそのカードをテンプレートとして活用させることで作成する報告文の形式もそろえることができた。



① 「学習活動5～8」での1人1台端末の利活用

児童たちは、情報収集しながら、調べたことを意欲的にロイロノートのカードに記録していった。その後、そのカードを見ながら伝えたいことの内容を決め、カードを取捨選択したり、順番を入れ替えたりしながら文章の構成を決めていった。構成を決めた後はカードに記録してある内容を書き換えながら文を整え、下書きとしてまとめていった。

まず、1人1台端末での文字入力に慣れている児童にとって、手書きでの作業に比べ、文の加筆や修正、削除が容易であるため、「とりあえず入力しよう」という感覚で文を作成しながら、報告文の完成を目指している様子が見られた。

また、今回は、報告文の作成であるため調べた内容を引用する部分も多い。その際に、コピー&ペーストの編集機能を活用することで、正確な引用を短時間で行わせることができた。また、いわゆる「コピペ」の正当な活用方法を紹介できたという点でも有効であったと考

える。さらに、前単元「目的に応じて引用するとき」では、文章の引用の方法や出典の書き方について学習している。「著者名『書籍名』出版社、出版年、ページ」や「作成者、ホームページ名、URL、閲覧日時」等の定型書式もテンプレートへの例示やコピー&ペースト機能の活用が有効であった。

さらに、例示されている単元計画では、カード、メモ、下書きと、学習活動のたびに新たに文を書くことになっている。しかし、ロイロノートを活用することで、情報収集から下書きまで同じツールを使ってシームレスに学習を行うことができた。このことは、各活動時間が効率化されただけでなく、例えば、下書きをまとめながら必要になった情報を追加で収集し、報告文に付け足している様子も見られるなど、文の質的な向上にも大いに役立っていたと考えられる。

③ 「学習活動9」での1人1台端末の利活用

推敲では、まず、書きあがった下書きをペアで送り合い、相互に読み合いながら下書きを修正する活動を行った。手書きでの活動に比べて加筆や修正が容易なことから推敲にも取り組みやすく、意欲的に文を修正している様子が見られた。これは、教師も加筆や修正の作業に取り組みやすいことを意味する。結果、しっかりと推敲を行わせることができ報告文の完成度を高めることができた。

次に、ペアでの推敲が終わったら、ロイロノートの提出箱に提出させた。担任は、提出された報告文を読み、該当児童と個別に時間をとってよいところを賞賛したり指導したりできた。修正箇所があればそれを指摘し、再提出させた。

さらに、完成した報告文がいくつか提出箱に出される状況になったら、提出箱を共有設定し、児童たち同士で自由に閲覧できるようにした。これにより、友達の報告文を参考にしながら自分の報告文を直したり、友達同士で読み合ったりして推敲し合ったりする活動に発展させることができた。その間、担任はじっくりと個別指導を行うことができた。

3. 調べて分かったこと

手すりのことを調べたら、手すりには、いろいろな種類があることがわかりました。

(1) 歩行補助手すり

歩行補助手すりは、階段や廊下などにある手すり、手すりの中で一番身近にあるものです。ホームページには、「手を滑らせながら歩行したり、握りながら身体を安定させて歩行できるように、取り付けられた手摺の事。」と書いてありました。

(2) 動作補助手すり



動作補助手すりは、トイレやお風呂などにある手すり、この画像のように取り付けられているものです。

ホームページには、「立ち上がる、座るなどの動作を補助したりする際に使用します。」と書いてありました。

<参考>

- ホームページ「歩行補助手すりとは-コトバンク」
<https://kotobank.jp/word/%E6%AD%A9%E8%A1%8C%E8%A3%9C%E5%8A%A9%E6%89%8B%E3%81%99%E3%82%8A> (2022年9月1日閲覧)
- ホームページ「いま知りたい、手すりのこと | ナカ工業株式会社」
https://www.naka-kogyo.co.jp/about/products_05.html (2022年9月1日閲覧)

(3) 実践を振り返って

① 「児童の学びへの意欲」はどうだったのか

まず、1人1台端末を使うことへの興味は、小学5年生においても総じて高い。特に、「報告文」という誰かに読まれることを前提とした文章を作成する学習においては、前述のように「丁寧に字を書くのが苦手」「文を書くのに時間がかかる」など自分の筆記に自信がもてない児童の学習意欲に与える影響はかなり大きいものとする。

また、1人1台端末を使うことで、次のように学習の効率化を図ることができたとする。

- ・カード送信機能でまとめ方の提示したことによる効率化（学習活動4）
- ・カード機能で各活動をシームレスに行えることによる効率化（学習活動5～9）
- ・編集機能で文章の加筆や修正が容易に行えることによる効率化（学習活動5～9）

学習の効率化とは、時間的なロスを省き児童たちの活動時間を確保することだけでなく、学習活動への取り組みやすさにつながるものであるとする。その意味において、これらの一つ一つも児童の学習意欲を後押しする力になったのではないかと考える。

② 「児童の学びの質」はどうだったのか

本実践では、1人1台端末での学習活動に置き換えることで、次のような学習活動の実現が可能もしくは容易になり、より充実した学習活動につながったと考えられる。

- ・情報収集、整理分析、まとめ表現の往還的な活動による学習の充実（学習活動5～8）
- ・提出箱の共有機能を用いた協働的な推敲による学習の充実（学習活動9）

まず、「情報収集、整理分析、まとめ表現の往還的な活動」を1人1台端末を使わない環境で行おうとすれば、新たにかんりの労力を必要とするため、順を追って一つずつ学習活動を進めていくことになる。しかし、1人1台端末を活用することで、下書きを進めながら新たに情報収集をしたり、カードを追加して文章の構成を変えたりすることが実現可能となり、それはより充実した学習につながる可能性があるとする。

次に、「提出箱の共有機能を用いた協働的な推敲」について、本実践の最大の成果はここにあるとする。推敲という学習活動と不可分である文の加筆修正という作業について、その容易さに関しては学習の効率化で述べたとおりであり、その点だけを見ても十分な有効性を示しているとするが、そもそも推敲とは、文章をより充実したものに仕上げるために行う活動であり、学びの効率化ではなく、むしろ学びの質の向上に直結させるべき学習活動である。しかし、自分が書き上げた（と思っている）文章が、実際にはどうなのかを自分自身で判断するのは難しい。ここで担任の出番となるわけだが、必然的に個別対応とならざるを得ず、十分な手当ても難しいというジレンマがあった。しかし、本実践において1人1台端末は、それを補って余りある役割を果たしたのではないかと考える。ロイロノートの提出箱の共有機能により、児童たちはお互いに友達の報告文を手元ですぐに閲覧することができ、しかも複数の報告文を閲覧することができる。それらと読み比べながら、自分の文章がどうなのかを判断することができた。そして自分の文章をよりよくするために必要な情報を検索し、参考にしながら報告文の完成を目指すことができた。本実践では、単元全9時間中、実に3時間を推敲に費やしている。その時間を使って、友達の報告文を参照したり、友達と直接関わり合ったり、教師の指導を受けたりしながら、何度も何度も推敲を重ねた。1人1台端末によって、それだけ多くの学びの手段と学びのヒントとなる情報がもたらされ、児童たちの学びの質の向上に大きな役割を果たしたものであるとする。

◆ Aさんの報告文（上段：下書き完了時のもの／下段：推敲完了時のもの）

パーミットパーミット制度について 5年1組 **番	1.調べたきっかけ お店（イオンやベルク）などにパーミット制度があったので、どのような役割をしているのか気になったので調べてみる事にしました。	2.調べ方 図書室の本から資料を探したり、タブレットを使って調べたりしました。	3.調べたこと (1)「パーミットパーミット制度」ってどんなものか？ ・バスや電車の「優先席」のような、障害のある人や年寄り、けいせいの人が利用しやすいように、出入り口の幅を広げてあります。 (2)「駐車場の利用制限制度」ってどんなものか？ ・駐車7ヶ月から産後6ヶ月まで利用できる。	4.まとめ ・パーミットパーミット制度は障害のある人や、妊娠中の人などが使う駐車場の幅が広がりました。 ・また、パーミットパーミット制度は色々な形で使われている事が初めて知りました。	(参考) ・高橋 儀平『店と公共施設のバリアフリー』小峰書店（2016年）
「パーキングパーミット制度」について 5年1組 **番	1.調べたきっかけ お店（イオンやベルク）などに「パーキングパーミット制度」という制度があるのを知りました。それがどのような役割をしているのか気になったので調べてみる事にしました。	2.調べ方 図書室の本やインターネットを使って、資料を集めました。	(1)「パーキングパーミット制度」ってどんなものか？ 「パーキングパーミット制度」とは、バスや電車の「優先席」のようなものです。 「障害のある人や年寄り、けいせいの人が利用しやすいように」を目的としています。 また、「障害のある人に優先的に利用できる」とも書いてありました。 (2) 妊娠の方の「パーキングパーミット制度」の利用について 「パーキングパーミット制度」は、妊娠の方も使えます。 「思いやり駐車場の利用制限制度」について-高橋儀平には「妊娠7ヶ月から産後6ヶ月まで使える。」と書いてありました。	4.まとめ ・「パーキングパーミット制度」は障害のある人や、妊娠中の人などが、そのお店を利用しやすいようにしている役割を持っている事が分かりました。 ・「パーキングパーミット制度」は、いろいろな形で使われている事が初めて分かりました。	(参考) ・高橋儀平『店と公共施設のバリアフリー』小峰書店（2016年） ・ホームページ「思いやり駐車場利用制限制度について-高橋儀平」

◆ Bさんの報告文（1段目：下書き完了時のもの／2・3段目：推敲完了時のもの）

水道 下水道のバリアフリー 5年1組**番	1.調べたきっかけ 水道や下水道のバリアフリーについて調べたかったから。	2.調べ方 図書室にある本から資料を探して行った。	3.調べたこと 「まちの施設たんけん 水道 下水道」には、「この水道管のどこかに穴が開いたりすると、水が漏れてしまう。だから、普段から古い水道管を取り替えたり、水漏れを修理したりする作業をしている」と書いてあった。	4.まとめ 普段から、古い水道管を取り替えたり水漏れを修理していることが分かった。	(参考) 大垣 眞一郎『まちの施設たんけん』株式会社小峰書店（2004～2006年）
水道 下水道のバリアフリー 5年1組**番	1.調べたきっかけ 図書室の本を読んだら、「水道や下水道のバリアフリー」について書いてあり、それはどういったことだろうと思いを調べた。	2.調べ方 図書室にある本から資料を探して調べた。	(1) 水道管 『まちの施設たんけん』水道 下水道には、「この水道管のどこかに穴が開いたりすると、水が漏れてしまう。だから、普段から古い水道管を取り替えたり、水漏れを修理したりする作業をしている」と書いてあった。	(2) 水の検査 『まちの施設たんけん』水道 下水道には、「浄水場では、みんなの家にどける水の質を、いつも調査している。水道の水は、安心して飲めるようではないといけないから」と書いてあった。たしかにその通りだと思った。	(3) 水が止まらないように 『まちの施設たんけん』水道 下水道には、「水道の同じく大きな役目は、安心して飲める水もいっつも使えるようにしておくことだ。断水といって、水道の水が止まってしまうようなことがあると、困るから」と書いてあった。
	(4) 水の使いかた 『まちの施設たんけん』水道 下水道には、「多量の水は1人が1日に水道の水を40リットルも使う。もちろん、飲むだけではない。家では浴槽、洗濯、お風呂、トイレなど、学校やお店でも、調理室、プール、トイレなどに水道水を使っている」と書いてあった。そんなにたくさん水を使っていることは初めて知った。水がなければいけないと思った。	(5) 色々な水道 『まちの施設たんけん』水道 下水道には、「まちの水道は、たいていは小田原市と同じように、大きな川を利用している」と書いてあった。でも「日本には、川がない場所や水道管が壊れてしまったり、冬の間が寒いから水が凍ってしまったり、水がなければ暮らせないから、土地の様子によっているような工夫がある」という、その土地に合わせて色々な水道が必要になったことが分かった。	(6) 下水の処理 『まちの施設たんけん』水道 下水道には、「下水処理場では、下水汚泥といって、水の汚れや微生物のたままりが、どうしてかたまるんだ。それに、下水に混ぜて流れてきたごみも出る。ごみも下水汚泥も、きれいに処理することが大切だよ」と書いてあった。	4.まとめ 普段から、古い水道管を取り替えたり水漏れを修理していることが分かった。それに下水処理場で下水汚泥がどうにかに気をつけていることも分かった。このようにいろいろな工夫や努力をして、僕たちがいつでもどこでも水道や下水道を使えるようにすることが「バリアフリー」であることが分かった。	(参考) 大垣 眞一郎『まちの施設たんけん』水道 下水道 株式会社小峰書店（2004～2006年）

③その他の課題や留意点について

本実践においては、ロイロノートを活用して報告文を作成したが、文章編集機能の使い勝手に問題が残る。具体的には、文字の入力量、行数により、自動で文字サイズが変更されてしまうことや行頭の揃え方が難しいこと、空白や改行などの編集記号がなく編集しにくいことなどである。これらは、ロイロノートが、文章編集に特化したアプリではないことに起因するものであるが、それでも、カード単位の編集機能や提出箱機能など、ロイロノートには、それを補って余りあるメリットがあると考えられる。その特性を見極めて活用する必要がある。

また、提出箱機能の共有化により学び合いを促す学習場面があったが、ともすると友達の報告文を模倣することで形だけを整え、その児童の真の学びにつながっていない可能性についても危惧されるところである。これは、佐藤学¹が「学びの偽装」と警鐘を鳴らしているものの類型であるとも考えられるが、1人1台端末の安易な活用によりそれに陥ることのないよう、児童たち一人一人の学びの過程を注意深く観察していく必要がある。

最後に、1人1台端末を授業で活用するためには、児童たちにもある程度の文字入力技能が必要である。しかし、児童たちが未来において、様々な情報端末を用いながら生活を営んでいくことが想定されている中では、生きる力を培うという意味においても、日常的に1人1台端末に触れさせることの大切さを意識しながら実践を重ねていきたい。

¹ 佐藤学「内外教育（第7042号）」2022年11月29日，時事通信社，P.1